

地域ねこ活動と在宅ケア

相生地域猫の会 富田恵美子
チーム植田山 樋口 郁子

飼い主のいないねこをその地域で管理していく「地域ねこ活動」を通して、在宅ケアを地域でどのように支えあうのか一考察を報告します。

ペットブームと言われる昨今、動物は人間にとってのパートナーともなりかけがえのない存在となりました。しかし、一方では、外で暮らす飼い主のいないねこ（ノラねこ）は増え続けており、ふん尿、鳴き声、ごみあさりなど環境の問題が苦情として多く寄せられるようになりました。

不妊手術なしの飼育や飼育放棄が原因となりノラねこは繁殖しています。私たちはこの問題を抜本的に解決していく方法として「地域ねこ活動」に取り組んでいます。具体的にはノラねこを捕獲し不妊去勢手術を実施して繁殖を防ぎ、地域で生きるねことして世話をしながら、増えなくすることで個体数を減らしていくものです。

飼い主のいないねこを地域で世話をしていくためには、その地域の住民の理解と協力が不可欠です。

私たちが地域に対して行うこの働きかけは、ねこをきっかけにするものですが、人々とのコミュニケーションが生まれ、暮らしぶりを知り、問題を分かち合うことに繋がっています。

〈活動方法〉

- 学区役員へ活動の主旨、計画の文書を提出
- 全世帯へ同文書の要約チラシをポスティング
- 役員から知りえた情報を基に個別訪問
- 訪問先からの情報を基にさらに個別訪問を続ける
- 全域のねこに関する情報を集め、協力者を募る
- TNR (trap/neuter/return) の実施
- TNR 後のねこの世話について定期的な個別訪問
- 役員、全世帯へ報告書を配付

このような活動を繰り返し、12軒ほどで構成される1ブロックにおよそ2軒ずつの協力者が生まれています。その方たちの多くは高齢であり日中も家で過ごすことが多く、定期的な訪問の中で健康状態や家族との暮らしのことなど様々な思いを聞くことができました。本人が望む生活を手助けしたいと考えた時、私たち市民活動者としてできることは傾聴であったり、情報提供であったり、

家族ぐるみの関わりであったりします。私は現在、パート職員として訪問看護を行っています。業務としての訪問看護では残念ながら地域への関わりまでは行えていません。

〈介護保険に関わるケース〉

管轄地域包括センターよりねこに関する問題をもつケースとして協力の依頼で関わり始めた例です。

79歳 男性 独居 飼いねこが増えてしまって困っている。室内飼いにして適正飼育をしたい。

サービス内容—訪問ヘルパー週1回1時間

独居で高齢であるため、掃除が行き届かないことに加え、ねこの繁殖により家の中はゴミやふん尿で汚れ土足で生活を強いられる状態でした。ねこの不妊手術を行いつつ、家の中でねことともに快適に暮らせるような飼育方法を指導しました。人との関わりが少なく、認知機能の低下がありましたが、その対応がされていないためケアマネジャーにサービスの検討を依頼しました。

今後はこの地域へねこの適正飼育の啓発を行いながら民生委員、保健委員などが本来の機能を発揮できるように話を進めていく方向で調整しています。また、認知症サポーターの活用もしていく必要がありそうです。

〈考察〉

近年、集団の流れに無分別に従うことへの批判や、個人の自由を尊重すべきとの考えが強くなり、地域での横のつながりは希薄になりつつあります。特に自治会などの既存の組織には硬直したものが多数あり、住民からそっぽを向かれていることも少なくありません。

地域で高齢者が暮らし続けるためには、地域で支えるシステムが必要です。私たちの経験から、その活動が何を目的にしたものであっても、地域を対象としての活動全てに、近所でお互いをささえ合える力を伸ばしていく側面があることを皆様にお伝えしたいと思います。

既存の区政福祉事業と協力体制をとりながら、地域で活動している仲間をネットワーク化していくことが、高齢者を支えていくことに繋がると確信します。

生活協同組合コープあいち 高齢者のための買い物代行サービス「お買い物フレンズ」などには協働が期待できそうですが、この機会に私たちが知らないいくつかのグループとも繋がることが、この発表の目的でもあります。

今、人間関係のできたこの地域に暮らし気付いたことは、関わりをもたないことよりも関わりをもつことの方

が楽しい ということです。ライフワークとしての「地域
ねこ活動」を通じ、地域と在宅ケアのなかの小さな橋渡
しとなれば、幸いです。